

コロナ禍は「地元の魅力再発見」の大きなチャンス

H30年度に名古屋市が発表した「都市ブランドイメージ調査」にて、全国主要8都市の中で「最も魅力に乏しい都市」という結果になってしまった名古屋。市民ですら魅力を感じられていない名古屋を中心とする愛知県は、本当に観光の魅力に乏しいのか？

コロナ禍において、愛知県でも外出自粛、移動制限が呼びかけられており、観光の面でも大きなダメージを受けている。そこで、観光需要回復に向け、愛知県は県民向けの旅行補助事業「LOVEあいちキャンペーン」を7月下旬から実施している。

当面の観光のトレンドは、「ご近所観光」「マイクロツーリズム」になると言われている。安全・安心で、近場で、短時間で楽しんで帰る旅が、withコロナ時代に相応しい旅ということもあり、キャンペーンは好調。中日新聞にも旅行会社からの関連商品広告が掲載され、大きな反響を呼んでいる。

愛知県はこれまで産業観光、武将観光、街道観光などを推進してきたが、愛知県内の自然資源は非常に豊富である。奥三河地区や豊田の山里・高原エリアなどの「山・森」、「海」では知多半島からみる伊勢湾に沈む夕日は一級品。楽しめる「島」も多く、日間賀島、篠島、佐久島では食、生活文化、町なみなどを満喫できるが、案外知られていない。自然以外でも、知多の岡田、津島、豊橋の二川、日本遺産にも認定された常滑、瀬戸、有松など「古くて新しい“なつかし町”観光」もおすすめ。

これまで愛知県ももれなくインバウンド需要の拡大を狙ってきたが、世界的な新型コロナウイルス感染の蔓延状況も鑑みると、方針転換は必至である。ただ、その状況をプラスにとらえれば、地元の魅力に目を向ける大きなチャンスでもある。インバウンドが復活した際に、どのようなスポットを発信すれば喜んでもらえるか。そのためにはまず、住んでる人間が地元の魅力を再発見することが肝心。しばらくは、まだ見ぬ「地元の宝探し」を楽しみたいと思います。

中日新聞社 名古屋本社広告局広告一部 竹内慎太郎

2020年7月18日 中日新聞
LOVE あいちキャンペーン